

10 泌尿器がん術前患者に対する 六君子湯投与の意義

ベルランド総合病院 泌尿器科¹⁾、
滋賀医科大学医学部 医学科 泌尿器科²⁾、
神戸医療センター 泌尿器科³⁾、
三重大学大学院医学系研究科 腎泌尿器外科⁴⁾、
女性医療クリニック LUNA グループ⁵⁾、
順天堂大学大学院医学研究科泌尿器科学⁶⁾

玉田 聡¹⁾、上仁 数義²⁾、大岡 均至³⁾、
井上 貴博⁴⁾、関口 由紀⁵⁾、堀江 重郎⁶⁾

本邦における高齢がん患者の割合は増加の一途であり、泌尿器科領域のみならず高齢がん患者に対して安全に手術を行うことは喫緊の課題である。術前の全身状態は術後の予後や合併症発症の頻度と相関すると言われており、術前に全身状態をできるだけ改善させておくことは重要である。術前に栄養状態を改善させると言っても西洋薬での対処は難しい。そこで日本特有の漢方薬を用いて術前の補完療法としてその服薬意義について検討する計画を立案した。

補剤の基本骨格は「人參+黄耆(参耆剤)」である補中益気湯、十全大補湯、人參養栄湯であるがこれらに関しては他領域で既に検討がなされている。そこで本研究では六君子湯を用いた術前栄養状態の改善に焦点をあてる。

腎がん、前立腺がん、膀胱がんに対して根治治療を行う患者のうち、高齢者機能評価簡易ツールGeriatric-8を用いた評価で14点以下であった患者を対象として術前の1ヶ月間、六君子湯を服用していただき、術前栄養状態が改善したかどうかを検討する。Primary endpointはEuroQol-5 Dimension-5 scoreの変化とし、secondary endpointは周術期合併症の頻度、Controlling Nutrition Scoreの変化、Mini Nutrition Assessment(患者用、医療者用の総和)の変化とした。

まずはベルランド総合病院で先行研究を行い、良好な成果が得られれば、泌尿器漢方研究会を主導として研究を発展していく予定である。